

# 『魏志倭人伝』から風俗関連の記事

魏志倭人伝は、邪馬台国への行路で有名な中国の歴史書ですが、このなかで倭人の風俗に関する記述を紹介します。

魏志倭人伝が記述している倭の時代は、弥生時代後期、3世紀ごろ以前と思われます。

原文 書き下し文 意識

男子無大小 皆黥面文身 自古以來 其使詣中國 皆自稱大夫 夏后少康之子封於會稽 斷髮文身 以避蛟龍之害 今 倭水人好沈没捕魚蛤 文身亦以厭大魚水禽 後稍以為飾 諸國文身各異 或左或右 或大或小 尊卑有差 計其道里 當在會稽東冶之東（東冶は東冶の転写間違いと考える）

男子は大小無く、皆、黥面文身す。古より以来、その使中国に詣（いた）るや、皆、自ら大夫と称す。夏后少康の子は会稽に封ぜられ、断髪文身して、以って蛟龍の害を避く。今、倭の水人は沈没して魚、蛤を捕るを好み、文身は、亦、以って大魚、水禽を厭（はら）う。後、稍（しだい）に以って飾と為る。諸国の文身は各（それぞれ）に異なり、或いは左し、或いは右し、或いは大に、或いは小に、尊卑の差有り。その道里を計るに、まさに会稽、東冶の東に在るべし。

男子はおとな、子供の区別なく、みな顔と体に入れ墨しています。むかしから、倭の諸国の使者が中国にやって来ると、みな自らを大夫と称していました。夏后（王朝）の少康（五代目の王）の子は、会稽に領地を与えられると、髪を切り、体に入れ墨をして蛟龍（想像上の恐ろしい動物）の害を避けました。今、倭の水人（海士）は、潜って魚や蛤を捕ることを好み、入れ墨は最初は（少康の子と同様に）大魚や水鳥を追い払うために行っていましたが、のちにしだいに飾りとなりました。倭の諸国の入れ墨はそれぞれ異なって、左にあったり、右にあったり、大きかったり、小さかったり、身分の尊卑によって違いがあります。道のりを計測すると、まさに会稽の東方になります。

其風俗不淫 男子皆露紵 以木絛招頭 其衣横幅 但結束相連略無縫 婦人被髮屈紵 作衣如單被 穿其中央貫頭衣之

その風俗は淫ならず。男子は、皆、露紵し、木綿を以って頭を招（しば）る。その衣は横幅、

ただ結束して相連ね、ほぼ縫うこと無し。婦人は被髪屈紉す。衣を作ること単被の如し。その中央を穿ち、頭を貫きてこれを衣る。」

倭の風俗はみだらではありません。男子はみな結った髪を露出し留めています。その服は横幅があり、単に結び束ねてつなげ、ほぼ縫っていません。婦人は髪を結び束ねています。服は一枚の布の中央に穴をあけ、そこに頭を入れて着ています（貫頭衣のことと思われます）。

倭地温暖 冬夏食生菜 皆徒跣 有屋室 父母兄弟卧息異處 以朱丹塗其身體 如中國用粉也  
食飲用籩豆 手食

倭地は温暖にして、冬夏生菜を食す。皆、徒跣。屋室有り。父母、兄弟は異所に臥息す。朱丹を以つてその身体に塗る。中国の粉を用いるが如し。食飲には籩豆を用い、手食す。

倭の地は温暖で、冬でも夏でも生野菜を食べます。みな素足です。屋根、部屋あり。父母と兄弟は、それぞれ別の場所で寝、休みます。赤い顔料を体に塗ります。中国の粉（おしろい）のようです。食飲には、籩豆（ヘントウ、竹制や木製の高坏）を用い、手で食べます。

其會同坐起 父子男女無別 人性嗜酒

その会同、坐起では、父子、男女は別無し。人性は酒を嗜む。

集まったときの立ち居振る舞いは、父子男女の区別はありません。人は酒を好みます。

見大人所敬 但搏手以當跪拜 其人寿考 或百年或八九十年

大人を見て敬する所は、ただ搏手し、以って跪拜に当てる。その人は寿考、或いは百年、或いは八、九十年。

大人を見て敬意を表するとき、手をたたくことで、跪き拝む代わりにしています。人は長寿で、ある人は百歳、あるいは八、九十歳の人もあります。

女王國東 渡海千餘里 復有國皆倭種 又有侏儒國在其南 人長三四尺 去女王四千餘里 又有裸國黑齒國 復在其東南 船行一年可至

女王国の東、海を渡ること千余里。復（また）国有りて、皆、倭種。又、侏儒国有りて、その南に在り。人長は三、四尺。女王を去ること四千余里。又、裸国、黒齒国有りて、復、その東南に在り。船行一年にして至るべし。」

女王国の東の方に海を渡って千余里行くと、また国が有ります。その国もみな倭種の人です。また、侏儒国（小人国）が女王国の南にあります。人の背丈は三、四尺（72cm～96cm）です。この国は女王国を去ること四千余里のところにあります。また、裸国と黒齒国があり、また、女王国の東南にあります。ここへは船で一年行くと着きます。

魏志倭人伝はかなりの分量のある記述がされていますが、風俗に関係のありそうな個所を抜きだして紹介しました。

記載された内容の信憑性については、かなりの疑問符がつくと感じます。著者の陳寿さんが直接、見聞して書いたわけではなく、また聞きか、また聞きのまた聞きといった程度、あるいはかなりの想像も入っているのではないかと推測されます。ただ、この時代の文献史料は魏志倭人伝ぐらいしかないので、同書を参考にせざるをえません。

魏志倭人伝のほかに、『漢書』地理志、『後漢書』東夷伝も、おおむね紀元1～200年頃の日本について書かれていますが、その内容は繋がりがあるとされています。

### 魏志倭人伝

中国の歴史書『三国志』の「魏書」・「烏丸鮮卑東夷伝倭人条」（魏書東夷伝倭人条）の略称。

当時の日本列島にいた倭人（日本人）の風習や地理などについて記述されています。

『三国志』の成立時期は、西晋による中国統一後の280年以降。著者は、西晋の陳寿（297年没）。中国の二十四史の中でも、『史記』（司馬遷）、『漢書』（班固）、『後漢書』（范曄）とともに優れた歴史書であると評価されています。